

斉藤亮選手出場レース
JCF ジャパンシリーズ XCO #4 白馬スノーハープ レースレポート

大会名：2011 白馬チャレンジ・マウンテンバイク大会

期日：2011年7月31日（日）

会場：白馬スノーハープ

天気：雨のち晴れ

気温：21～28℃

湿度：78%

競技種目：男子エリート 5.6km×5周回

スタート：14:00

出場者数：72名

結果：4位

報告者：中村肇（ホルメンコールジャパン）

機材トラブルに見舞われた全日本選手権後のJ1再開戦。白馬スノーハープは台風の影響でWETな状態。8時半に会場入りした時点では激しい雨が断続的に降る。気温は21℃で肌寒いくらい。スポーツクラスが始まり、斉藤選手の高校時代の同級生、現XCスキーナショナルチーム恩田祐一選手も出場。ドロドロになりながら5位。

エリートクラスが始まる時点では雨は止み、日差しが当たる所は蒸し暑く厳しいコンディションになって行った。ただしコース内はドロドロのWET状態には変わらない。シングルトラック入り口には大きな水たまりがあり、恩田選手は深さが分からないためそのまま突っ込み前転したという。エリートクラスレース中は友情サポート。日本一のランナーがサングラスチェンジなどに文字通り奔走してくれた。



今回こういった極端な WET (というよりも MUDDY) 状態なこと、全日本選手権での DRY 過ぎるコーティングの選択だった経験もあり、斉藤選手のリクエストでチェーンルube はナチュラルバイクルube を選択。雨天での意外なほどの耐久性にすっかり信頼している。基本ナチュラルのみの注油にルーベンスピードでチェーン外側を中心にコーティング。小林メカニックの了承を得て中村が実施。ローラーでのアップも今回はスペアではなく試合用バイクで。アップ終了後にチェックし、問題ないためそのままスタートを迎える。もちろん泥の溜まりやすいところには入念にダートプロテクターを吹き付け、フレームにはスポーツポリッシュなど、使えるケミカルはすべて使用。スプロケットやクランクなどのメタルパーツもダートプロテクターで。6月の富士見での実戦投入以来、定番になった方法。



バイクジャージやシューズにはいつも通りハイテックプルーフ。肩や袖の部分は顔や額に着く汗や異物を拭き取ることもあるため、ここにはスプレーしない。吸水性が必要な部分を避けてコートする。これだけドロドロの状態だと泥の付着は免れない。しかしシューズのメッシュ部分に入った泥さえも、ハイテックプルーフのコーティングのおかげでちょっとした振動で剥がれ落ちることが飯山で行った最初のテストのときから立証されている。ウェアも同様。ちょっとしたことで斉藤選手を疲労から遠ざけることがホルメンコールケミカルの使命。

アイウェアにはノーフォグで曇り止めとクリーンな状態を保つ。



斉藤選手のコメント

「今回の泥レースではホルメンコールケミカル本来の特性をかなり活かすことができました。バイクにはスポーツポリッシュ、ペダルやディレーラーにはダートプロテクター、ウェアにはハイテクプルーフ、サングラスにはノーフォグ、そしてチェーンにはナチュラルバイクルーベにルーベンスピードでコーティング。

クオリティーの高いホルメンケミカル製品を使用することで、他選手からアドバンテージを奪えたことは間違いありません。泥レースにはトラブルが付き物ですが、ナチュラルバイクルーベにルーベンスピードでコーティングしたチェーンは泥の中でもまったく問題なく軽快に走れました。あの過酷なレースを走り終え、洗車した後のチェーンを確認するとまだまだ走れそうな程の油分が残っており、しっかりとコーティングされていたのには驚きました。

ホルメンコールスタッフの献身的なサポートと発想力により、今の自分を支えて頂いています。「LICENSE TO WIN」ホルメンコールと共に頂点を目指します。」